

第 48 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	高ゼミ II	チーム名	東京グーグル
タイトル	グーグルはなぜ、モバイルファーストから AI ファーストに切り替えたのか。		
テーマ群	d)国際経済、e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>グーグルの使命は「世界中の情報を整理し、世界中の人々がアクセスし使えるようにすること」である。この使命は、1998 年にグーグルが生まれて以降、1 つも変わっていない。また、2016 年 4 月に現 CEO スンダー・ピチャイは「モバイルファースト」から「AI ファースト」への戦略の転換を表明した。これは、冒頭で示したグーグルの使命を実現するための新しい手段と考えられる。今までモバイルファーストの戦略を立て、Android の開発などで世界をリードしてきたグーグルが、なぜここにきて戦略を転換したのか。そのグーグルの真意を探求したい。</p> <p>そこで、「グーグルは、なぜモバイルファーストから AI ファーストに切り替えたのか」という研究計画を設定する。この研究計画に対して「グーグルは、モバイルプラットフォームである Android などを中心に、世界中から膨大な量の情報『ビックデータ』を収集してきた。この『ビックデータ』を AI の開発に活用し、いくつかの新たな AI 主体の『プラットフォーム』の構築を行っている。最終的に、その個々の『プラットフォーム』を組み合わせ、一塊の巨大なネットワークの完成を目指している。」という仮説を設ける。グーグルは Android をオープンソース化し、独自の「プラットフォーム」を作りあげた。AI を活用する自動運転分野でも同様にオープンソース化し、プラットフォームの構築を目指していると私たちは考える。その根拠は、グーグルが設立した子会社「ウェイモ」が「自動運転技術企業」であり、自動車本体を作るのではなく、自動運転の基本となる OS を開発しているからである。また、スマートフォンの位置情報やグーグルマップで収集した「ビックデータ」を活用して整理し、詳細な 3D マップを作製することで、AI を補助する仕組みを作っている。</p> <p>今後、プラットフォーム戦略を初めとするグーグルの経営戦略を掘り下げることで、自動運転を開発する真意を追求したい。また、AI を使う他分野でも同じように「プラットフォーム」を構築しようとしているのかを調べることで、仮説の実証を行っていく。</p>		